

ねこぬこタムのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え

おおくぼ ゆう やく

ねこぬこタムのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく



いたずらっこの みんなへ ささぐ
—— とくに うちの にわの へいを のぼる こどもたちへ



むかしむかし 3びきの こねこが おりました。 なまえは ミトンズ、 ねこぬ
こタム、 モペット。

みんな それぞれ けなみも みじかく ふわふわ かわいらしく、 とぐちの あ
たりに ごろごろ、 ほこりを たてつつ たわむれます。



ところが あるひ みんなの ママ —— ぐいぐいタビサ —— が おともだち
を おちゃへ まねきました。そこで こねこたちを うちのなかに 入れて、
おきやくさまが つくまでに よごれを おとして きがえを させようとしたのです
。



まずは かおを ごしごし。(このこは モペット。)



そのあと けなみの おていれ。(このこは ミトズ。)



しあげに しっぽと ひげを すきます。(このこが ねこぬこタム。)
タムは とっても やんちゃで やたらと ひっかくのでした。



ママの タビサは モペットと ミトonzに あらいたての エプロンドレスと えりかざりを きせます。 つぎに タンスの ひきだしから、 すてきだけど きちきちの ふくを さまざまに とりだして、 むすこの タムの きがえを かんがえました。



ねこぬこタムは ぷくぷく ふとって おおきくなっていましたので、 ボタンが
いくつも はじけとんでしまっ。 おやとして また ぬいつけることに。



3びきの こねこの したくが できると、 ママの タビサが あろうことか みんなを にわへと だしてしまつて。 バタートーストが やきあがるまでの やっかいばらいの つもりだったのですが。

「いいこと、 ふくを よごさないこと！ うしろあしだけで あるくように。 はいだめは きたないから ちかよらない、 それから へにぺにサリーにも、 あと ぶたごやも、 みずかきさんたちにもね！」



モペットと ミトonzは ふらふら にわの こみちを くだっていきます。 たち
まち エプロンドレスを ふんづけて、 はなから じめんに つっこんで。
たちあがったときには みどりの しみが あちこちに！



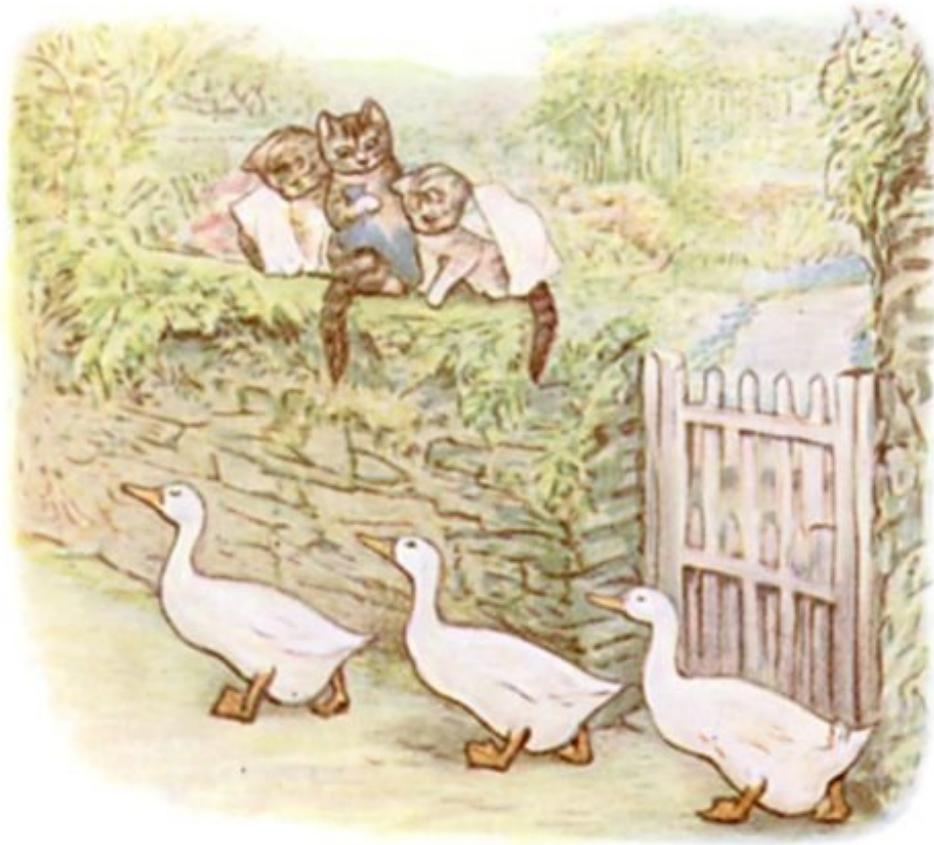
「あっちの いわの おにわに のぼって、 へいに こしかけよっ。」と モペット
。
エプロンドレスを うしろまえにして ぴよんぴよん スキップしながら いきま
した。 モペットの しろい えりかざりが みちばたに おっこちます。



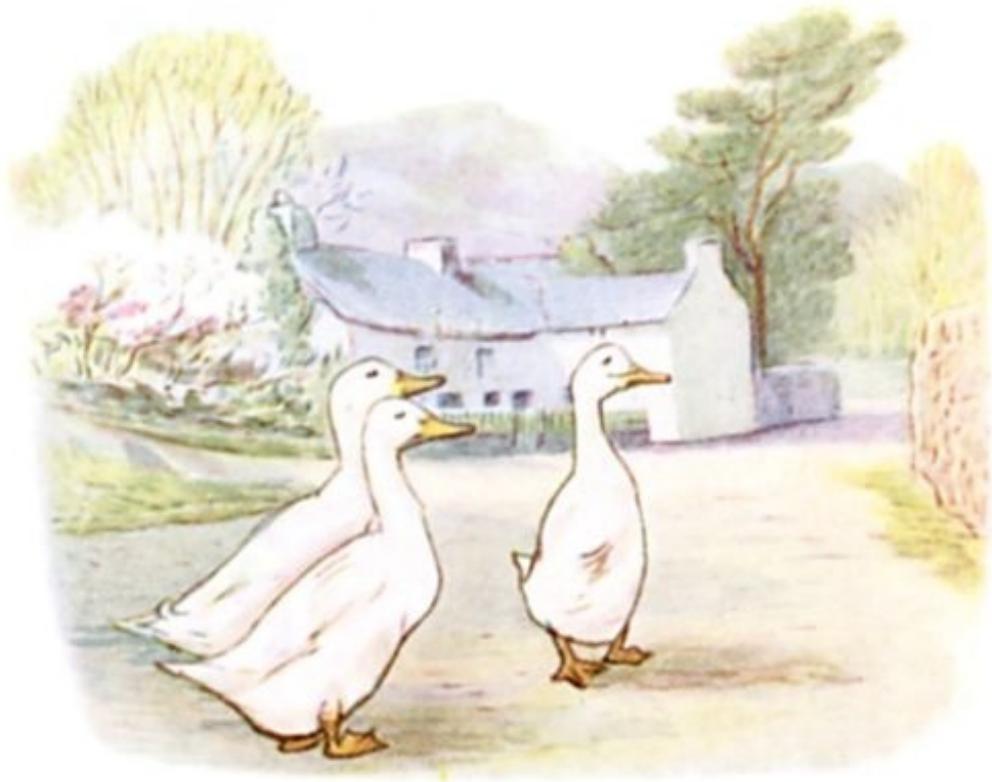
ねこぬこタムは ずぼんを はいたままの うしろあしでは うまく とべず、 あ
るくしか ありません。 いわの にわまで ゆっくり すすみながら、 しだを ひ
っかけたり、 ボタンを みぎにひだりに ぽろぽろ おとしたり。



へいの てっぺんに たどりつくころには もう どこもかしこも むちゃくちゃで
。
モペットと ミトンズが ふたりして タムを なんとかしようと しましたが、
ぼうしは めげるわ のこった ボタンも はじけとぶわで。



と、なんぎしているとそこへペたペたみずかきのあしおとが！つづいて
3びきのあひるがかたいじめんのおおどおりをあるいてきまして、れつ
になってあしをのばしたまま——みぎひだり——ペっペったんたん
！よちよちよたよた！



3びきは たちどまり、 よこに ならんで こねこたちを みあげます。 そのち
いさな めは びっくりしているみたいで。

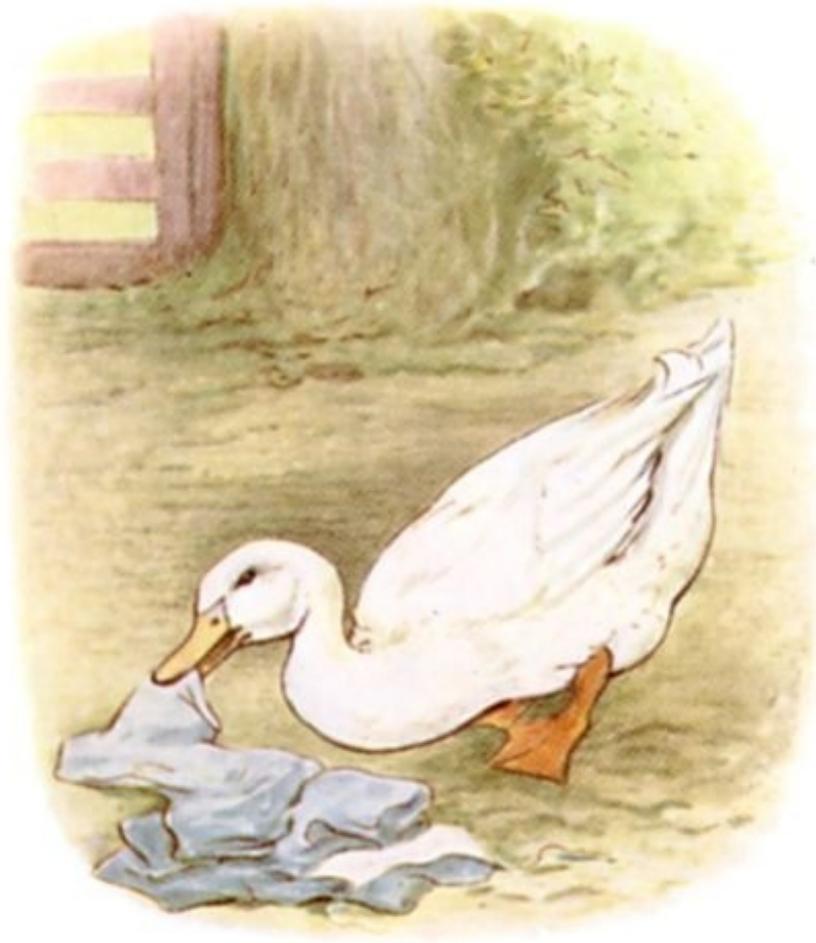


すると 2ひきの あひる、 みずかきリベカと みずかきジェマイマが ぼうしと
えりかざりを ひろいあげ、 じぶんたちで かぶってしまつて。



ミトonzは おなかを よじらせ、 へいから おっこちました。 モペットと タムも あとを おって したに おります。 エプロンドレスも のこった タムの ふくも まとめて そのときに ぬげおちて。

「ねえ！ みずかきドレークさん。」というのは モペットです ——「こいつの きがえ てつだってよ！ タムの ボタンを とめるの！」



みずかきドレークさんは よこあるきに うごいて、 いろいろあったものを みんな ひろいあげました。



ところが それを ぜんぶ じぶんで きてしまって！ すると タムいじょうに
あわない にあわない。

「うむ、 ごきげんよう！」と みずかきドレークさん。



そして みずかきドレーク、 ジェマイマ、 リベカの 3びきは みちの さき
へと すすみだしまして ー あしなみ そろえて ー ペっぺっ たんたん！
よちよち よたよた！



そこへとうとう ぐいぐいタビサが にわへと やってきて、 へいのうえで はだ
かになっている こねこたちを みつけたわけです。



へいから ひきずりおろされ、 おしおきされ、 こねこたちは うちへと つれもどされました。

「おともだちが もうすぐ つくっていうのに、 これじゃ ひとまえに だせないわ。 はずかしい。」と ママの ぐいぐいタビサ。



3びきは うえのかいへと つれていかれ、 あんまりなことに ママの おともだちへは はしかで ねていることに されまして。 もちろん うそです。



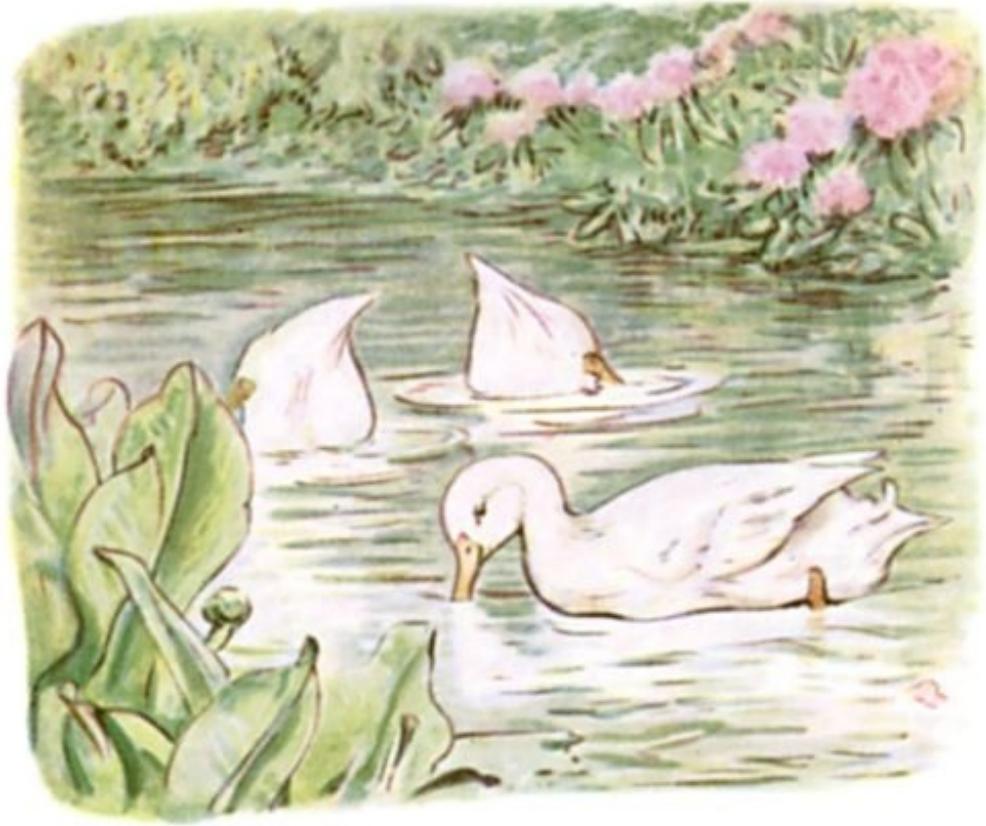
まったく それどころか、 ねていないどころの はなしでは なくって。
 どういうわけか ほんとうに おかしなくらい ひどい ものおとが うえから し
 てきまして、 おちゃかいは ふんいきも おちつきも だいなし。



と　ここまで。　ねこぬこタムの　おはなしは　またいつか　もっと　おおきな　ほ
んで　おはなしすることに　なるでしょう！



さて みずかきさんたちですが ー そのあと いけに ゆきまして。
ボタンが なかったから ふくも ぜんぶ そのまま ぬげおちてしまいました。



それで みずかきドレークさんと ジェマイマと リベカは いまだに ずっと さがしているのですよ。

(おしまい)

Original Text: *The Tale of Tom Kitten* (1907)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

ねこぬこタムのはなし

<http://p.booklog.jp/book/33401>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33401>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33401>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.